

人間教育研究協議会代表・全国的な学力調査に関する専門家会議座長・中央教育審議会前副会長(教育課程部会前部会長)

梶田 叡一

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 澤井 陽介

これからの社会科教育

新学習指導要領の実施2年目、その趣旨も定着してきています。社会科教育の現状とこれからの展望を、梶田 叡一先生、澤井 陽介先生に語っていただきました。



澤井 陽介

さいわい ようすけ*東京都生まれ。立教大学法学部法学科卒業。東京都公立小学校教諭、東京都立多摩教育研究所指導主事、八王子市教育委員会指導主事、町田市教育委員会統括指導主事、同副参事を経て、2009年から現職。編著に「新社会科 調べ考え表現するワークと学び方手引き」「授業が変わる地球儀活用マニュアル」(明治図書)、「教師の評価術」(東洋館出版)など、多数。

梶田 叡一

かじた えいいち*松江市に生まれ、米子市で育つ。京都大学文学部哲学科(心理学専攻)卒業。文学博士。国立教育研究所主任研究官、大阪大学教授、京都大学教授、京都ノートルダム女子大学学長、兵庫教育大学学長、環太平洋大学学長を歴任。現在、(学)聖ウルスラ学院理事長、(学)松徳学院理事長など。「新しい学習指導要領の理念と課題」(図書文化)、「教育評価」(有斐閣)、「基礎・基本の人間教育を」(金子書房)など、多数。

* 改訂のねらいと学校での実践の状況 *

梶田 学習指導要領が改訂され、新たな内容・方向づけの実践が展開されていますが、社会科としての全体的な状況をどう見えておられますか。

澤井 改訂については、三点のポイントがありました。

一点目は、基礎的な知識や技能の習得と活用です。知識としては、47都道府県の名称と位置、世界の主な大陸、海洋や主な国の名称と位置、地図記号、方位などが代表的な例です。地理に関する基本的な知識です。そして、技能としては地球儀の活用です。これらの知識や技能を使って、社会的事象を地理的な空間の広がりの中でどう捉えるかです。

二点目は、今回、教科目標にある公民的資質の基礎に「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を含む」という説明が加わったことです。そこで、法やルール、伝統や文化、自然災害、エネルギー資源、情報、社会保障、

経済などの内容が、変化する社会を確かに捉える際の見方や考え方を強調する視点から、加えられたり見直されたりしています。

三点目が教科横断的な改訂のポイントである思考力、判断力、表現力の育成です。各学年の目標に「考えたことを表現する」という文言が加わりました。言語活動の充実を背景にしています。調べたことや考えたことを表現するという目標に変え、思考力、判断力、表現力の育成につなげようとしています。

梶田 いずれも大事な意味をもつポイントです。現場での受けとめ方、浸透の仕方、課題などをどう見ておられますか。

澤井 一点目の基礎的な知識や技能は、むしろ現場が欲していたようで、ワークシートや白地図などを使って、日常的に大変熱心に取り組まれています。今まで覚えさせることを躊躇していた現場にすっと入っている感じがします。地球儀については、活用されるようになってきていますが、活用する力をどのように育てるか

が今後の研究課題です。

二点目の内容が加えられたり、見直されたりした部分については、実践研究として取り組まれています。自然災害や情報のネットワーク、伝統文化を生かした町づくりなどについては、よく実践していただいています。

三点目については、言語活動を特別な活動と捉え、発表会や討論をしなければいけないと考えて「時間が足りません」という声が上がっています。言語活動が目的であるかのような捉え方です。

まずは、総則にあるように、全ての教育活動で言語に関する能力を育てていくことを前提にする必要があります。そのうえで、考えたことを言語などで表現する力を養うためには、内容が示されている社会科としては「何を考えるようにするか」が重要だと思います。教科等の内容に即して養っていくようにするのが思考力・判断力・表現力です。したがって単元あるいは本時の目標をしっかりと設定できるかがカギになります。

* 言語活動の充実 言語は、認識の道具 *

梶田 どの教科も言語力や言語活動がとても大事であることを頭において指導しようというのが今回の改訂の趣旨ですね。

言語力をコミュニケーション力だと思っている人がいますが、そうではありません。言語は、コミュニケーション以前に、認識の道具、思考の道具です。

調べ学習は、社会科で当初から大事にされてきた学習形態です。調べるだけでなく、きちんとまとめて表現することが大切です。特に、キーワードがきちんと使えること、キーワードとキーワードをつなぐ「なぜならば」とか、「これとこれの関係は…」といった論理の力が身につくことを考えていかないとけません。

ところで、大事なこととして教えるべき内容が豊富になりましたが、現場の反応はどうですか。
澤井 「社会科で知識として何を教えるかわからない」と言われることがあります。何が大事な用語であるかが、これまで整理さ

れずにきています。ですから、改めて、用語などを整理する、調べてわかつてくる事実を整理する、考えるべき事柄を整理するなど、子どもが学ぶべきことを整理する取り組みが出てきています。

梶田 教科書に出ていること全てを、となつたら大変です。軽重があります。これは絶対にはわかっていないといけない、次はそれとの関連でこれをわかつてほしい、ということがあります。一応なぞつただけでいい、というものもあります。そのあたりをはつきり区別するためには、教師の頭の中できちんと整理ができていないといけません。何よりも教材研究ですね。

*** 社会科授業の難しさ
問題解決学習の課題 ***

澤井 社会科では用語を教え込むのではなく、習得して使つて考える授業が大切です。そのため、問題解決的な学習が大事になります。内容を整理して、それを教材を通してどう伝えるか、子どもが主体的に問題解決しながら、どういう道筋で理解し

ていくかが、社会科の授業づくりのいちばん難しいところですね。これをいかに実現できるようにしていくかが課題です。

梶田 個別のバラバラなものは覚えてもすぐに忘れてしまいます。でも、いろいろと関連づけられると、ネットワークとして頭に残りやすくなります。これが大事です。

澤井 社会科の学習では、「なぜなのだろう」「どんな様子なのだろう」と問いをもち、それを解決するわけです。先生にとつては、関係を見ていく、意味を考えていくような「なぜ」を子どもに投げかけることが教材とともに大事なポイントになります。

梶田 そうですね。問いの工夫が大切です。

澤井 社会科で取り上げる内容（社会的事象）は、大人の社会の事柄を子どもの前にもつてきますから、子どもにとつて初めから身近ではないのです。ですから子どもが身近に感じるためには、疑問や学習問題が大事になります。問いを通して身近なものとして考える過程が大切です。

例えば、「スーパーマーケットの

努力をしておられます。大事な取り組みだと思えました。

澤井 社会科は自分の足で稼ぐ教科だと教えていただいたことがあります。会つて話を聞いたり、本物に触れたり、写真を撮ったり、足で稼いだ授業は迫力があります。教師自身の教材に対する思いが違います。やってみると納得いく授業がきつとできます。

*** 公民教育としての
社会科の役割 ***

梶田 社会科という教科には、民主主義社会での主体的な市民を形成するというねらいがあります。討論を通して、いろんな考え方を互いに出し合い合意形成にもつていくことは、民主主義の土台です。公民教育と言われませんが、主体的な主権者としての市民に育ててほしい、という願いは、社会科を指導するときによくも頭においてほしいと思います。

澤井 これからの子どもたちには知識としての情報を一面的でなく、多面的に収集して、分析して考える力をつけてほしいと思

ひみつを調べよう」という課題があります。本当にひみつを知りたがっているかどうかの問題です。まず仕事の様子やお店の様子を知らない疑問は湧いてこないのです。

また、歴史で、たった30年の間に、なぜこんなに大きく変わったかという問題を示すことがあります。しかし、30年は子どもの人生の3倍です。子どもは「たった30年」とは思いません。だから、子どもにとつて疑問が生じるかどうかをよく検討しないと、教



師が誘導して、調べさせて、決まった答えを出させるだけの学習になつてしまいます。問題解決の形骸化ですね。

梶田 30年という歴史の認識にしても、10年前、20年前、30年前の町の写真を見せて、「同じ駅前がこんなに違うね」といったところからいくといいですね。

自分の日常生活とどこかつながりがないと理解できません。だから、子どもの身近な素材の教材化が大事な課題になるのです。

澤井 そのことに深く関係する

ます。だから合意を形成したり、共通理解を深めたり、新しい考えを生み出したりする「みんなで考える」問題解決的な学習が改めて求められるのです。

梶田 そのとおりですね。
澤井 よく話し合いをさせますが、実際に話し合うと混沌こんとんとしてしまうことがよくあります。

例えば、「裁判員制度に賛成か反対か」という授業がありました。しかし、この問いで討論しようということしか示されないの

もわからず、話し合うことだけが目的になつてしまつていました。よく見ると、この授業の目標は、裁判員制度の是非を決めることではありませんでした。「裁判員制度が始まった意味について、広い視野から捉えること」と指導案に書かれていました。そうであるなら、「国民は専門家ではないのに、なぜ裁判員制度が始まったのか」ということを課題として子どもに示すことが大切なのではないでしょうか。

収斂れんする話し合いなのか、拡



この1冊に「外国語活動」のエッセンスが満載!

学級担任の疑問に、実践経験豊富な学級担任が答えます。



特別座談会

メインテーマ

外国語活動をやったこと。これからの課題

直山 木綿子 × 松川 禮子 × 学級担任

- 「英語はど素人」の学級担任
- 子どもの意欲を引き出す学級担任の英語の力
- 最も大切なことは、子どもが楽しく取り組めるようにすること
- 最大の課題「小中連携」
- 「英語の定着を第一のねらいとしていない」とは
- 外国語活動で変わる子どもと外国語教育
- 実践情報を共有する場を

論考

主旨

外国語活動を充実させるために

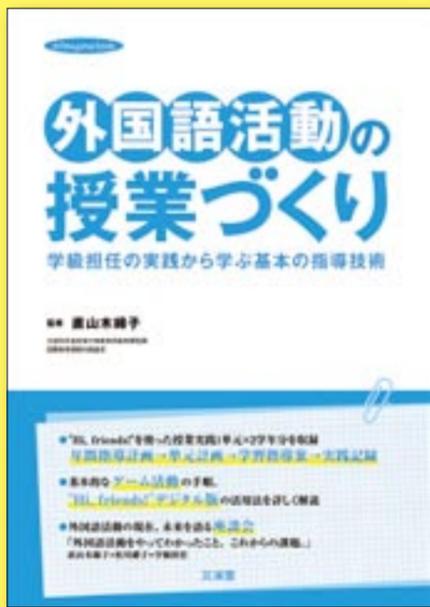
直山 木綿子

(文部科学省 初等中等教育局 教科調査官)

- ① カリキュラムについて理解しよう
- ② 子どもの実態に合わせて単元計画を立てよう
- ③ 小学校外国語活動と中学校外国語科をつなごう
- ④ 教材「Hi, friends!」を理解しよう



「Hi, friends!」対応



B5判 / 112ページ(別冊付録16ページ)
定価1,890円(税込)

実践編 第1章 「Hi, friends!」を使った授業実践を1単元×2学年分を丸ごと収録

実践編 第2章 学級担任が実践するための「基礎・基本」を押さえよう

年間指導計画



1年間の指導計画から1単元の指導計画、学習指導案、実践記録を掲載。指導の流れがよくわかる!

各活動時間を表示した実践記録

キーワードゲームなどの基本的なゲーム手順を詳しく紹介



授業実践にすぐに役立つ

「Hi, friends!」デジタル教材活用のコツをわかりやすく解説



付録

「Hi, friends!」活用早見表

「Hi, friends!」デジタル教材内容一覧

株式会社文溪堂
http://www.bunkei.co.jp

散する話し合いなのか、話し合う目的は何か、どんな視点で話し合うのかなど、意図を明確にして、子どもたちの確かな理解につながる話し合いを経験させていくことが大事です。

梶田 話し合いそのものが盛り上がり、話し合いの素朴に考えたり、勝ち負けを考えたりするのはまちがいです。相互理解を深め、妥当だと思われるところで互いの理解を共有化していく合意形成が大切です。

澤井 「これからはどうすればよいか」「あなたならどうするか」と教師が発問する授業がありますが、それも理解目標を不明確にすると、やみくもな言葉遊びや空論になってしまう。今の社会に生きている人たちはどのような取り組みをしているかを調べて理解し、その中で「自分にできること」や「一人ではできないけれど、みんなで力を合わせればできるかもしれないこと」などを考えさせないと社会科の学習にならないのです。社会科は社会の現実から学ぶということ。それを逸脱してしまうと、討論のため

の討論になってしまいます。

梶田 そうですね。今回の学習指導要領では、あなたはどのようなかという自分の生き方の問題を、社会科を学ぶ中で考えていくと謳われています。これが、はつきりと学習指導要領の文言に出てきたことは大事です。

澤井 社会科で育てたい子ども像としては、一つは変化する社会を確かに捉えて正しい考えや公正な判断で行動、選択できる子ども。もう一つは未来のよりよい公共社会をつくるために、みんなの知恵を出し合って力を合わせて問題を解決していく子ども。自力の問題解決と協働型の問題解決という二つの力をバランスよく育てていくことが大事だと思います。

* 社会科教育の「これからの課題」*

梶田 これからの社会科教育の課題に関して、何かありますか。

澤井 小学校では問題を解決していく力が重視されています。中学校では少し知識の量が多くなり、高校では更に知識が多くな

ります。今の構造でいくと、社会に近づけば近づくほど問題解決力ではなくて知識を身につける形になっています。

義務教育で7年と高校3年の10年間の社会科は、子どもをどのように大人にしていけるかを改めて考えなければいけない時期にきている気がします。中学校や高校の高度な地理、歴史という分野別に学ぶことと、小学校の総合的に学ぶことは違いがあり、簡単には内容がつながりません。学力、とりわけ思考力、表現力、判断力や社会的な見方や考え方を子どもに養うつなぎ方をしていることが必要だと思っています。

梶田 それは本当に大事なことです。小中高の見通しの中で、世の中で自分ができるように生きていくかを考える社会科になっていってほしいものです。

澤井 中学校の先生は高校入試のために学習内容を覚えさせるという大きな課題があります。だから、小学校で問題解決といってもロマンにすぎないのではないかと指摘もあります。でも、中学校でも教えれば覚

えるというのは幻想で、子どもが自分で知識を獲得するような何らかの課題がないといけません。考えて知識を獲得することが、覚えるということだと思います。考えるという場面や過程が抜け落ちると、基盤になる知識は身につきます。だから、改めて課題解決が大切なのだと思います。

梶田 今、言われたことは本当に大事だと思います。知識が相互関連的に位置づけられることで、長く記憶されるし、思考力の土台になっていくわけですね。

社会科は結局のところ、世の中(我々の世界)を学んでいくことを通して、自分がどう考え、どう判断し、どう生きていくか(私の世界)の力を育てていく教科です。社会科の大事さを今の時点でもう一度確認し合って、新しい学習指導要領に基づく実践を展開していってほしいと願っています。